

ニッパツ 三ツ沢球技場



所在地：神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢西町3-1
収容能力：15,046名
メインスタジアム：構造／鉄筋コンクリート造3階建・2階上部スタンド
建築面積／2,478.05m²
床面積／5,049.11m²
バック・サイドスタンド：構造／鉄筋コンクリート造平屋建・1階上部スタンド
建築面積／4,639.55m²
床面積／6,629.23m²
施主：横浜市
ナイター設備改修工事：(株)新川電気
ナイター設備改修工事完成：平成21年3月

Jリーグの横浜F・マリノスおよび横浜FCのホームスタジアム「ニッパツ三ツ沢球技場」。
4基の照明塔に搭載されたM1.5kWおよびNH1kWの投光器をM2kWダイナビーム2投光器に更新し、
高演色、高効率で、明るく快適なナイター設備が実現されました。

サッカー・Jリーグや全国高校サッカー選手権の会場「ニッパツ三ツ沢球技場」の照明リニューアル

横浜市三ツ沢公園球技場は、昭和30年に開かれた神奈川県に備えて建設され、その後、昭和39年の東京オリンピックのサッカー競技の会場として使用されました。

現在ではJリーグの横浜F・マリノスおよび横浜FCのホームスタジアムとして利用されているほか、全国高校サッカー選手権やラグビートップリーグなどの会場となっています。平成19年3月には、横浜市内に本社をおく世界No.1のばねメーカー・ニッパツ（日本発条株式会社）が施設命名権の契約を締結したことから、「ニッパツ三ツ沢球技場」となっています。

高演色、高色温度の2kWメタルハライドランプダイナビーム2投光器を採用

施設のナイター設備は、地上高さ約30mの照明塔4基がコーナー配置で設けられており、1.5kWメタルハライドランプ投光器168台と1kW高圧ナトリウムランプ投光器48台による混光照明方式となっていました。

今回の改修では老朽化調査の結果をふまえ、投光器はハイパワーで高演色性（平均演色評価数Ra:94）を兼ね備えた2kWショートアークメタルハライドランプ投光器（ダイナビーム2）に更新されました。高演色、高色温度のさわやかな白色光（5600K）により、プレイヤーのユニフォームや芝生の色を鮮やかに映し出しています。投光器は狭角形合計112台、中角形合計66台が適宜配置され、照射角を細かに現場調整し、競技面や空間照度の分布を良好にしています。とくにタッチライン付近の鉛直面照度の確保とコーナーキックの際にゴールエリアにいる競技者へのグレア軽減を図っています。安定器は将来の増設や省メンテナンスなどを配慮し、照明塔別の照明塔安定器・分電盤を地上に設けて一括して配置。点灯制御は、管理室に設けた制御盤にて、全点灯パターン・2/3点灯パターン・1/3点灯パターンおよび残置灯の点灯パターンを組み、競技レベルに応じた適切な照度を確保しています。



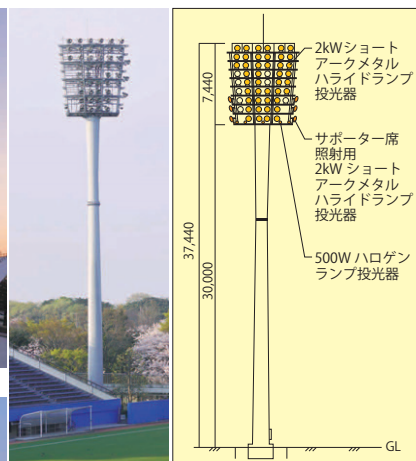
照明リニューアルされた球技場のナイター設備



ホーム側スタンドからビジター側スタンドを望む



バックスタンドからメインスタンドを望む



照明塔A

照明塔姿図



照明塔安定器・分電盤

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ
屋外	投光器（狭角配光形）	HT20018N(改)	112	2kWショートアークメタルハライドランプ
	投光器（中角配光形）	HT20018M(改)	66	
	投光器	IT-5028M	20	500Wハロゲンランプ